



# Analyzer Plug-in Quick Start Guide

Lake ControllerとAnalyzer softwareとのリンク方法を解説します。

Lake Controllerの操作に関する詳細は、Lake Controller Operation ManualのChapter18-4 (P.212-P.221※v1.6.0E)をご参照下さい。

※「すべてのプログラム」→「Lake Controller v. × × ×」→「Documentation」→「Lake Controller Operation Manual」(PDF)

## Analyzer software

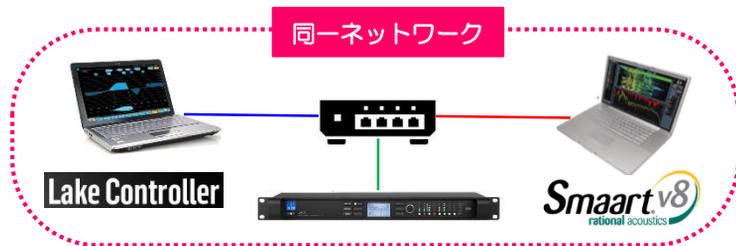
1. Analyzerソフトウェアを起動します。
2. API/external communicationを有効に設定します。
3. 新規の測定ルーティングを作成し、それに関する初期設定を行います。
4. すべてのレベルを最適なゲインに調整し、ジェネレーターを確認します。
5. スペクトラムとトランスファーをスタートし、正しく動作していることを確認します。

## Lake Controller

1. Lake Controllerを起動します。
2. ネットワーク上に有効なアナライザーが見つかった場合、F10ボタンは「Analyzer」と表示します。
3. 有効なアナライザーが見つからない場合、EQ及びXoverのオーバーレイのF10ボタン(「Analyzer Tap to Search」)をクリックします。検索中は、「Analyzer Searching」と表示されます。

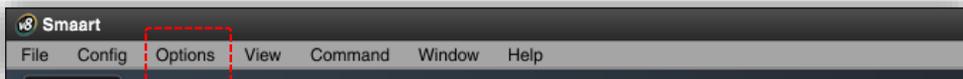
## Smart®(rational acoustics社)とのブリッジ※Smart® v8の手順

1. Lake ControllerのインストールされたPCとSmart®のインストールされたPCを同一のネットワーク内に入れた接続をします。  
※Lake ControllerのAnalyzer Bridge機能は、Smart®のMac OS versionには対応しません。

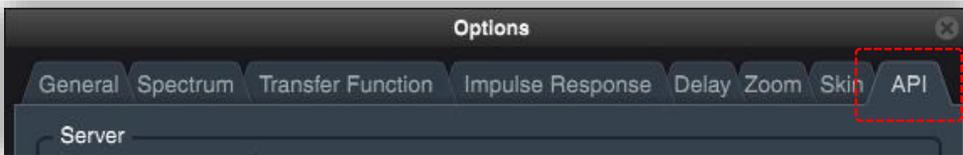


2. Smart®を起動し、以下の設定をします。

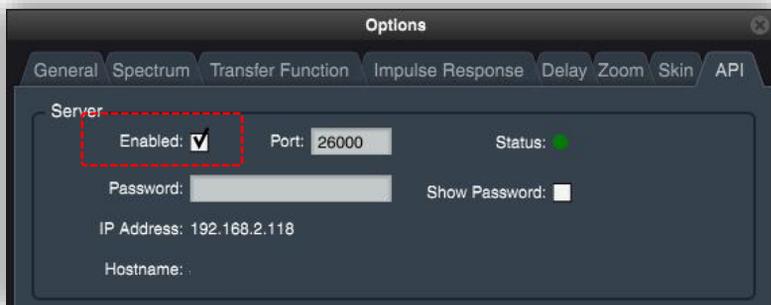
- ① メニューの「Options」を選択します。



- ② 「Options」画面のタブの「API」を選択します。



- ③ 「API」設定の「Status」の「Enabled」に ✓ を入れてAPIを有効にします。



- ④ 「Apply」を押した後に、「OK」を押して設定を確定します。



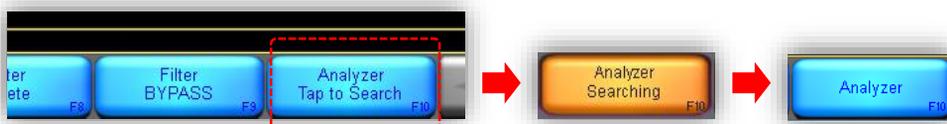
- ⑤ Smart®の測定をスタートさせます。  
 ※Smart®の操作方法については「Smart® v8 User Guide」を参照下さい。



 Lake Controllerと同じPC上でSmart®を動かしている場合、測定をスタートさせた後に最小化して下さい。  
 ※Lake Controllerと同じPC上でSmart®を動かす場合、PCのグラフィックス性能によっては、双方のアプリケーションの表示速度が落ちることがあります。

3. Lake Controllerを起動し、以下の操作をします。

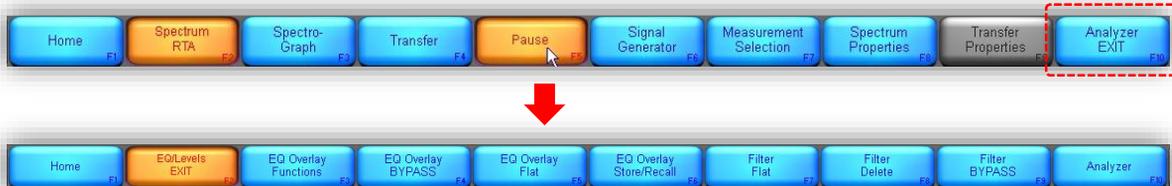
- ① Input EQオーバーレイ、Xoverオーバーレイ、HPF/LPFオーバーレイのコントロール・タブにある「Analyzer Tap to Search」(F10)をクリックします。橙色に変わり、「Analyzer Searching」と表示します。Smart®を見つけると、水色に戻り、「Analyzer」と表示されます。



- ② Analyzerメニューで、表示させたい測定グラフを選択します。(ex>Spectrum RTA)



- ② 「Analyzer Exit」を押して元のEQメニューに戻り、EQ操作を行います。

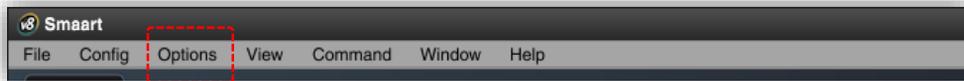


Lake Controllerの各オーバーレイで表示が可能なモード  
 「EQ オーバーレイ」: Spectrum RTA, Spectrum Graph, Transfer  
 「Xover オーバーレイ」「HPF/LPFオーバーレイ」: Transfer

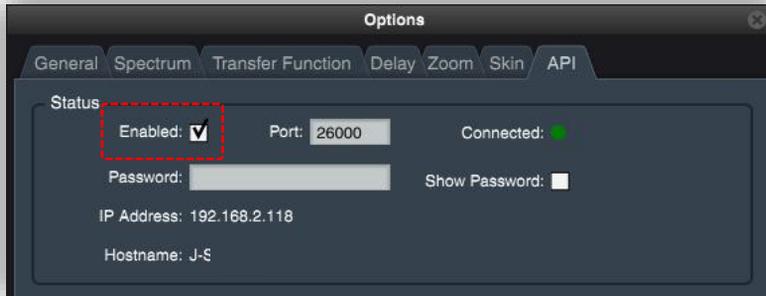
## Smaart®Di2でブリッジをする場合の手順 2 の設定

2. Smaart®を起動し、以下の設定をします。

- ① メニューの「Options」を選択し、プルダウンメニューから「API」を選択します。「Options」の「API」のタグが選択された画面が表示されます。



- ② 「Status」にある「Enabled」に✓を入れ、APIを有効にします。



- ③ 「Apply」を押した後に、「OK」を押して設定を確定します。



## Smaart®v7でブリッジをする場合の手順 2 の設定

2. Smaart®を起動し、以下の設定をします。

- ① メニューの「Options」を選択し、プルダウンメニューから「General」を選択します。「Options」の「General」のタグが選択されたポップアップ画面が表示されます。



- ② 「General」タグにある「API」の「Enabled」に✓を入れAPIを有効にします。



- ③ 「Apply」を押した後に、「OK」を押して設定を確定します。

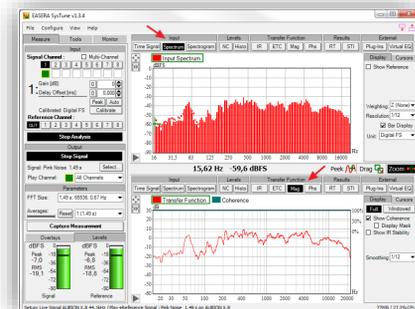


1. Lake ControllerのインストールされたPCに SysTune®をインストールをします。  
 ※SysTune v1.3では、Lake ControllerのAnalyzer Bridge機能を使うには、アプリケーションが同じPCにインストールされている必要があります。



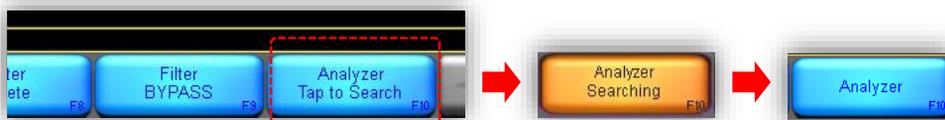
 Lake ControllerのPlug-inに測定 Plug-inを追加するには、Lake Controllerのインストールを行った後に、SysTune®のインストールを行う必要があります。

2. SysTune®を起動し、測定をスタートします。  
 ※SysTune®の操作方法については「SysTune® User Manual」を参照下さい。

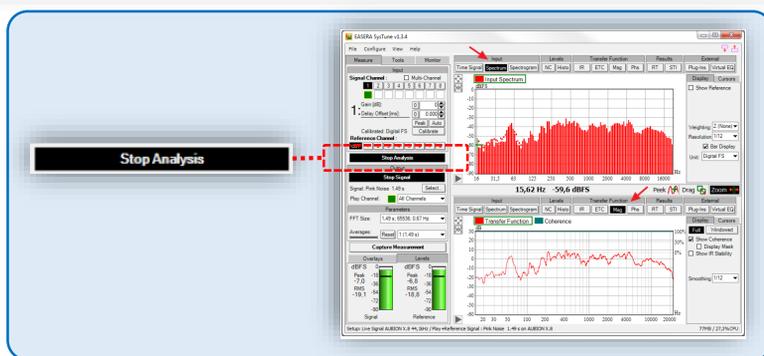


3. Lake Controllerを起動し、以下の操作をします。

- ① Input EQオーバーレイ、Xoverオーバーレイ、AUXオーバーレイのコントロール・タブにある「Analyzer Tap to Search」(F10)をクリックします。橙色に変わり、「Analyzer Searching」と表示します。SysTune®を見つけると、水色に戻り、「Analyzer」と表示されます。



- ② 「Pause」(F5)が押されていると、SysTuneの「Stop Analysis」が押された状態になります。



 Smart®および、SysTune®の詳細は、それぞれのソフトウェアの販売代理店様にお問合せ下さい。

Smart®はrational acoustics社の登録商標です。  
 AFMG SysTune®は、AFMG Ahnert Feistel Media Group社の登録商標です。